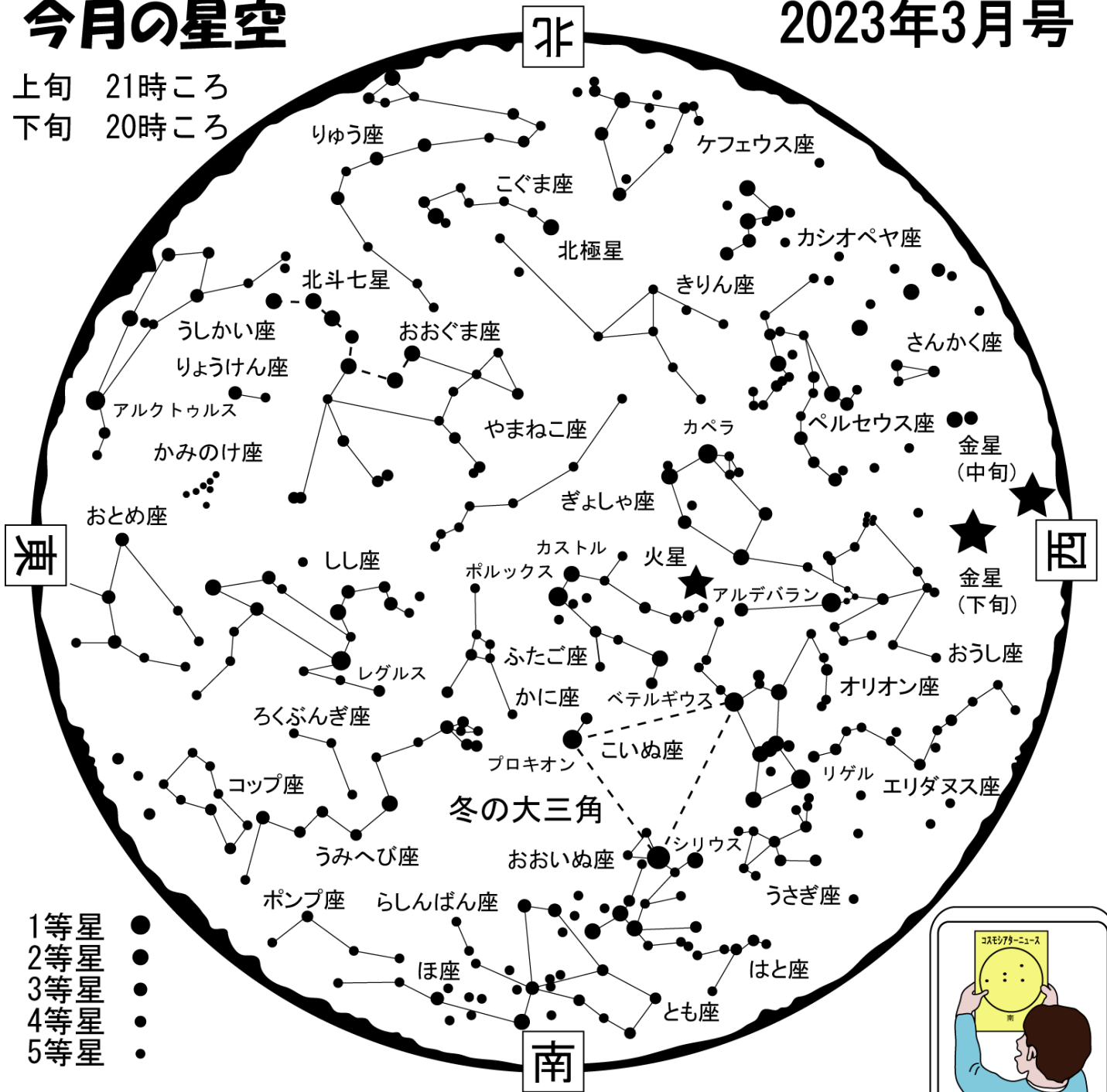


コスモシアターニュース

今月の星空

2023年3月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



- 1等星 ●●
- 2等星 ●●●
- 3等星 ●●●●
- 4等星 ●●●●●
- 5等星 ●●●●●●



自分の向いている方向を下にして、見てください

水星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。
金星：夕方、西の空に見えます。20時～21時ころに沈んで見えなくなります。明るさは4等星です。
火星：空が暗くなるころ南の空に見え、真夜中ころに沈みます。明るさは0～1等星です。
木星：中旬までの夕方、西の低い空に見えますが、すぐに沈みます。明るさは2等星です。
土星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。

今月の月の満ち欠け

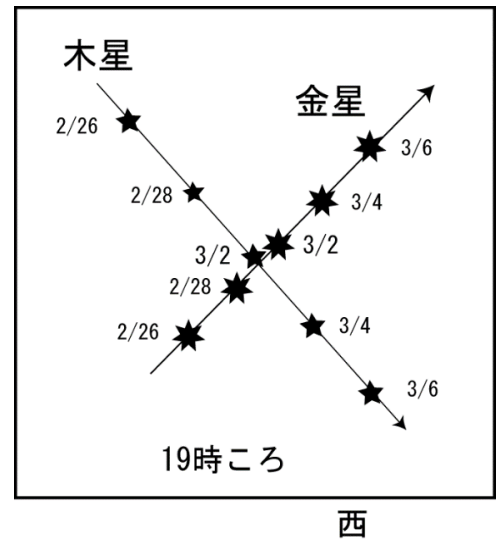
満月：7日(火) 下弦：15日(水) 新月：22日(水) 上弦：29日(水)

2日(木)、金星と木星が大接近

夕方、西の空に輝く金星と木星が、2日(木)に大接近します。右の図は、金星と木星の接近の様子を描いたものです。2月末の夕方19時ころ、木星と金星は、ほぼ上下に並んでいます。明るさは、金星が明るく、木星は少し暗めですがすぐ分るでしょう。

3月に入ると金星と木星はかなり接近します。そして、2日に左右に並び、最接近となります。この日は、金星が右側、木星が左側に並びます。二つの星の間隔は、満月1個分くらいになります。その後、金星はさらに高くなり、木星は右下に下がり、この接近は終了となります。特に、2日前後は急に並びが変わります。この二惑星の区別は、明るい方が金星と覚えておくと、間違えないでしょう。

金星の高さは、あまり高くないので、時間がたつとすぐに沈んでいきます。おおまかに19時30分ころまでにご覧ください。なお、2日は50倍程度の天体望遠鏡で、二つの惑星を一度に見ることができます。お持ちの方は、挑戦してみてください。



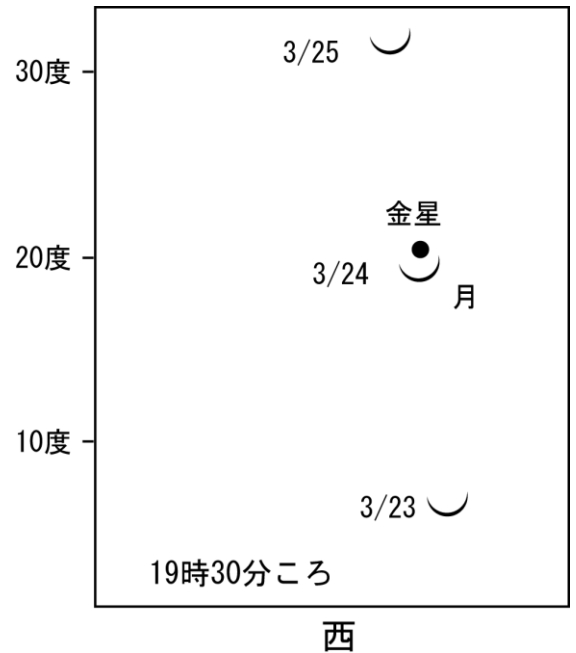
24日(金)、夕方の西の空で、月と金星が並んで輝く

24日(金)の夕方、19時ころ、西の空に、大変細い月が輝きます。そして、この月の少し上を見ると、金星が輝いているのが、たいへん目に付くでしょう。その後、19時30分ころになると、夕暮れがおさまリ、たくさんの星が見え始めます。このころには、いっそう、月と金星が美しく見えてきます。

さらに時間が進むと、月と金星はさらに近づきながら、高さが低くなります。月と金星が、西の空に完全に沈んでしまうのは、21時ころです。沈む直前には、月が金星に近づき重なりそうになりますが、その前に見えなくなります。ぜひ、19時ころから沈む前まで、ご覧ください。

なお、この日は、九州南部から南の地方では、月が金星に重なり、金星が見えなくなる、金星食が見られます。

さて、前日の23日(木)は、金星からかなり低いところに月が見えます。また、翌日の25日(土)は、金星の上に月が移動します。この3日間は、月と金星の並びが入れ替わります。天気良ければ、3日連続で見ると、月の移動も観察できるでしょう。



28日(火)、夕方の南の空で、月と火星が並んで輝く

28日(火)の20時ころ、ほぼ半月の明るい月が西の空に輝きます。そして、月のすぐ左側を見ると、オレンジ色の星が見えるでしょう。この星が火星です。火星は1等星で明るいのですが、そばに月が輝いているので、見つけにくいかもしれません。こんな時は、双眼鏡があれば、見つけやすいでしょう。

北極星を見つけよう

北極星は、ほぼ真北に見え、ほとんど動くことがなく、北の方位を教えてくれる星です。しかし、明るさは2等星で、特別明るい星ではなく、時々わからなくなることがあります。

こんな時は、北斗七星の星の並びから、見つけることができます。北極星の場所は、右のように、北斗七星の端の二つの星を結んで、その間隔を5倍延ばした所となります。

北の空の星は、北極星をほぼ中心に、時計の針と反対方向に動いています。このように北極星は、北の方位を教えてくれるだけでなく、星の動きもお教えてくれますので、もし北斗七星が見つかったら、北極星を捜してみてください。なお、右の図の方法で、カシオペヤ座からも北極星を見つけることができます。ただ春の時期は、カシオペヤ座の高度が低く、見つけるのは難しいでしょう。

